

職場体験感想文コンクール2024

タイトル	私の夢	事務局	501
学校名	酒田市立第二中学校	氏名	伊東美椿

私の将来の夢は医師として働くことだ。私の両親や祖父が医師なこともあり、小さい頃から漠然とそう思ってきた。今回の職場体験でも医療関係の場所を希望した。第一希望の「本間病院」に行けることになり、とても楽しみにしていた。

本間病院では実際に仕事をこなし働くのではなく、いろいろな部署で見学や講習、実際に少し体験させてもらうという内容だった。全部で9部署という盛り沢山のプログラムで2日間があった。

その中で特に心に残った体験が2つある。

1つ目は認知症サポーター養成講座だ。私の周りにも認知症ではないかと心配している人がいる。今までできていたことができなくなってしまうことに目を向けてしまい、とまどったり、本人も周りも辛い気持ちになることが多くあった。しかしこの講座で「一番心配で心細く、苦しんでいるのは本人である」という言葉を聞き、はっとした。勝手に私だけが大変だ、と思っていたことが大きな間違いであることに気がついた。また、講座では「周りの人達の声かけやサポートした」いでは認知症の進行を遅くさせたり、改善していくことができる」という話があった。今までどう対応すればいいのかわからなかったが、この話を聞き、すっと胸のつかえが取れた気がした。これからはできることを一緒に行い、気持ち良く過ごせる環境をつくっていきたい、と強く思う。

2つ目は介護事業部での体験である。介護事業部では利用者さんと一緒に体操をしたり、バットから車イスへの移乗を実際に体験したり、飲み物にとろみをつけてみたりと興味深い体験をたくさんさせてもらった。なにより介護士の方が常に笑って楽し

そうに話をしてくれたので、私も自然と笑顔で過ごすことができた。介護士の方は「辛い治療や入院生活が長く続き不安が多い患者さんにも、私達と話すことで少しでも笑い、楽しんでもらいたい」と話されていた。実際にしゃがんで利用者さん、患者さんと目線を合わせることや、庄内弁で声色を優しく話しかけることなど、細かい工夫があり、とても勉強になった。

私は今まで特に強い気持ちがあった訳ではなく、環境の流れで医師を目指していたところがあったのだと思う。医師の仕事の意義や役割もあいまいなまま、学力だけを養っていかねば良いと誤解していた。しかし、2日間医療現場を体験させてもらい、自分の目で色々なことを学び、感じる事ができた。一番苦しんでいるのは患者さんであること、その気持ちを救うためにいくつもの職種がそれぞれのアプローチを活かし共に働いていること、医療は人と人との関わりコミュニケーションが大切であること。これまでぼんやりとしか理解していなかったことを、自分の肌で直接感じる事ができ、新しい発見もあった。

「病院とは」「医療とは」ということについて一歩深く学んだが、私はより具体的な夢を抱いている。医療というチームの中で患者さんを一番に思い寄りそう医師になること。そして、両親や祖父のように挑戦し続け、仕事に対して誇りを持って働くこと。きっと実現させたいと思う。